

2017年12月

コンビニ大手三社の将来性についての一考察

経営学部 経営学科 堀田ゼミ

B4R11003 秋山宗太郎

【卒業論文概要】

現在の日本には都市部から田舎までさまざまな地域にコンビニは存在している。私たちが日々暮らす世の中にとってはなくてはならない存在となっている。最近ではコンビニがコンビニと統合するなどの新たなコンビニビジネスが展開されてきている。

本論文の目的は、コンビニ大手三社である、セブンイレブン ファミリーマート ローソンがコンビニという事業が存在してからどのように成長してきたのか、また、これからどのようなビジネスを展開していくのかを三社で比較して研究していきたい。

まず、大手三社の売上高を比較した。今はセブンイレブンが三社の中でも一強かしており、業界2位のファミリーマートより一兆円程の差がでてきている。コンビニの店舗数でも圧倒的にセブンイレブンが多いのだが、セブンイレブンのみ全国展開をしていない。最近では、コンビニ合併が進む中、ファミリーマートが最近で店舗数が大幅に増えている。なぜコンビニ合併が進むのかを検討にあたってどのようなメリットが発生するのか、その背景のなかでセブンイレブンがどのような事業を展開してきて業界一位まで登りつめたのか。また、他の二社もどのような事業展開をしてきて、大手のコンビニまでのし上がってきたのかを調べこれから先の経営戦略は何なのか検討した。